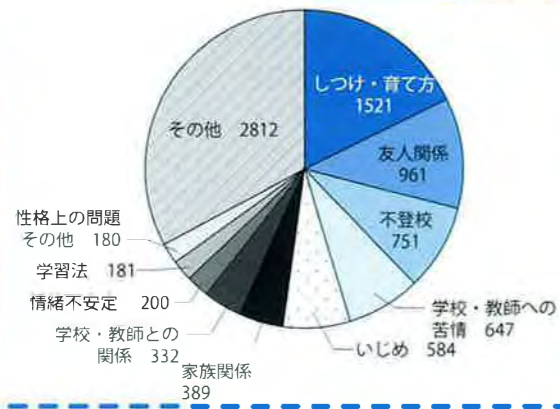


平成15年度相談実績 東京都教育相談センターに寄せられた電話相談、来所相談の実数です。

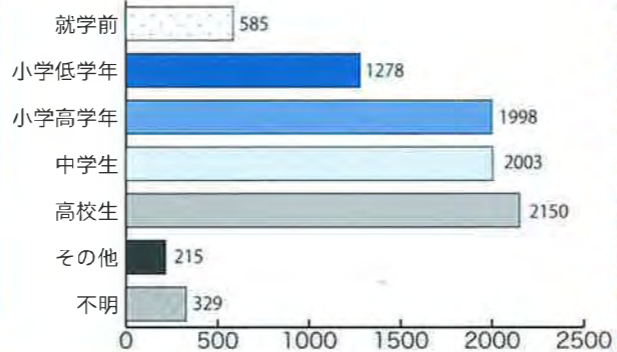
1 子育てや子どもの性格・行動、学校生活などに関する相談
(幼児・児童期、思春期、いじめ、体罰及び学校でのセクシュアルハラスメントの相談の合計)

①電話相談(8558回)

内容別相談数

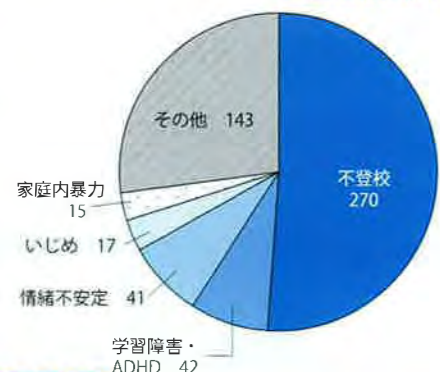


年齢段階別相談数

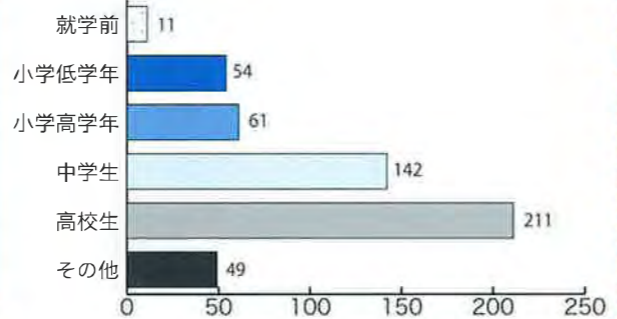


②来所相談(528件、のべ相談回数6287回)

内容別相談件数

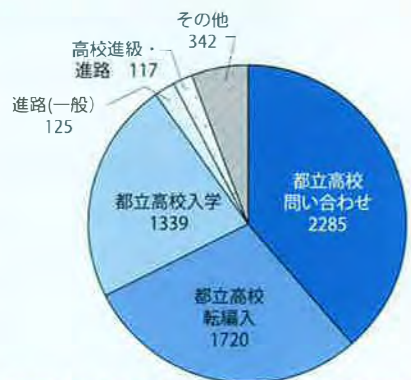


年齢段階別相談件数

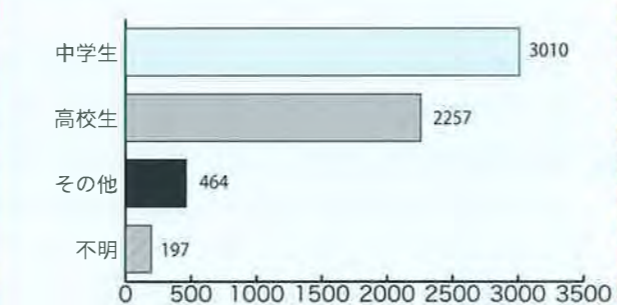


2 高校の進級・進路・就学に関する相談(電話相談と来所相談の合計相談数5928回)

内容別相談数



年齢段階別相談数



新規事業!

あした “明日への道しるべ”

第1回東京都教育相談センター進路相談会 ～不登校の子どもたちのために～

「中学生で不登校だが卒業後の進路についての情報が知りたい」「高校を長期欠席している、あるいは中途退学をしたがこれからの進路についての情報が知りたい」という切実な声にお応えします。進路についての情報をお伝えする全体会と、必要に応じて個別の進路相談会を開催します。全体会では、都立チャレンジスクールからの話もあります。

期日/場所 平成16年8月21日(土)/多摩教育センター
平成16年8月28日(土)/東京都教育相談センター

詳しくは、東京都教育相談センターホームページ (<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>) をご覧いただくか、電話(03-3493-8008)でお問い合わせください。”

広報 すこやかさん 第10号 平成16年6月発行

東京都教育相談センター 〒153-8939 東京都目黒区目黒1-1-14
TEL 03 (5434) 1983 FAX 03 (3493) 2293
<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

対応(経験) < 予防(啓発)へ

東京都教育相談センター 所長 池田 敬史



紀元前のことです。強盗に遭い身包み剥がされて、深く傷つき倒れているユダヤ人の前を、同じユダヤ人の祭司やレビ人が見て見ぬふりをして素通りしていきます。異教徒のサマリア人だけが、彼を見て不憫に思い手厚く介抱します。サマリア人にとっては民族や宗教の違いはどうでもいいことなのです。人としてなすべきこと、できることを行うことの意義を問う有名な「よきサマリア人」の話です。

教室に入れない子ども、心配事のありそうな子ども、人や周囲からの刺激になんともいえない違和感を抱く子ども・・・学校には援助を待っている子どもたちがいます。そして、子どもたちの側には、多くのよきサマリア人である教師がいます。なすべきこと、できることが当たり前に行える教職員の輪と和が繋がれば、もっと優しい、もっと素敵な学校になると思います。

一方で地域社会の力も得て、子どもたちの命と健康を守る、安全で安心な学校環境を整えることも大切なことです。

一人の対応からチームの対応へ

学校における教育相談の多くは、子どもたちの心や行動に対して教師が働きかけをする「対応」が多いと思います。子ども本人からの相談はもちろん、子どものサインや変化に気付いた教師が子どもに関わることになります。でも、学級担任に遠慮したり、気になる子どもが先輩教師の学級だったりすると言出しにくい場合もあるようです。一部の熱心な教師が研修を積み、カウンセリングの手法を身に付けても、教師にはカウンセラーと同じ対応を校内で行うのは困難です。スクールカウンセラーや地区の教育相談室の力も借りるなどして、学校の組織としてのエネルギーに教育相談という新たな機能を付加して燃焼させたいものです。

チームは身軽で気軽なものに

教育相談に関わる分掌は既に設置されていると思います。特別支援教育に関連し、軽度発達障害児の対応のための「校内委員会」を設けている学校もみられます。多忙な教師の日常を考えると、チームは少人数で立ち話程度でも情報交換ができる小回りのきくものが望まれます。大切なのは、子どものことを気軽に話せる学校環境、雰囲気づくりです。

組織的な対応は予防につながる

当センターでは「学校教育相談推進資料～子どもの心が開くとき 子どもと心が通うとき」を作成し、(1)学校生活における教育相談的対応 (2)教育相談の姿勢を生かした授業の視点 (3)一人一人の子どもを生かす連携の在り方、の3つの指針を示しました。また「リーフレット～都立高等学校における教育相談体制の構築のために」を配布しました。チームとしての対応の積み重ねは、子どもの心配ごとが少ない環境づくり、楽しく安心して学べる授業づくりにつながります。対応から予防に重点を置いた学校づくりを期待しています。

東京都教育相談センター案内

総合受付電話番号 03(3493)8008

○電話相談/平日 午前9時から午後9時まで
土・日・祝日 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)

* 高校進級・進路・就学相談は、平日午後5時までです。
* 上記以外及び休館日は、留守番電話及び電子メールにより対応しています。
メール相談は、ホームページ<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>から、お入り下さい。

○来所相談/午前9時から午後5時まで(平日)

* 電話でお申し込みください。
* 来所相談は立川出張相談室(立川市錦町6-3-1)においても応じています。



所在地/東京都目黒区目黒1-1-14



学校全体で子どもを見ていきましょう！



～学校教育相談の組織的な取り組みを推進するために～

一人一人の子どもたちが、生き生きと学校生活を送れるようにすることは、学校教育の重要な課題です。そのためには、教職員一人一人が、教育相談の考え方や姿勢を生かしたかわり方をするとともに、子どもの抱える問題に、学校として組織的に対応していくことが必要です。

学校教育相談活動は、教育活動の一環として教職員が行う援助活動です。カウンセリングマインドを生かして行う学習指導や生活指導等、日常の教育活動そのものです。したがって、専門家や特定の教員だけに委ねるものではなく、「いつでも、どこでも、だれもが行う教育活動」という認識をもつことが必要です。そして、個々の教員による活動から、学校全体の組織的な活動へ、計画的・継続的な活動へと展開させていくことが、学校教育相談のより一層の充実につながっていきます。皆さんの学校では、複数の目で、学校全体で、子どもを見ていく体制は整っているでしょうか。

● 組織的な取り組みを推進するために ●

子どもについての情報を共有していますか？

子どもたちの抱える問題は、複雑化、多様化してきました。担任一人が抱え込むのではなく、他の教員と情報交換することはとても有効です。子どもは、相手によって見せる顔が異なります。多くの目でとらえた子ども像を検討することで、その子どもについての理解が深まり、そのことから解決のヒントを見出すことができます。また、自分の対応について、その効果を確認することで、自信をもって対応することができるようになるでしょう。

- ・子どものことを日頃から話題にしましょう。
- ・年度当初に、配慮を要する子どもについての情報交換を行いましょ。
- ・学年会や生活指導部会等を活用し、情報交換や協議の場を定期的に設けましょ。
- ・特に配慮を要する子どもについて、事例検討会を行いましょ。
- ・他の学級や学年の子どもにかかわる機会を意図的に設けましょ。

子どもが相談しやすい環境になっていますか？

- ・相談室（またはそれに代わる部屋や場所）を設置しましょ。
- ・相談週間を設けたり、「相談室だより」を発行したり、気軽に相談することを、子どもや保護者に働きかけましょ。

教育相談が、校務分掌上に位置付けられていますか？

「教育相談部を設ける」「教育相談担当を生活指導部や保健部等の中に位置付ける」など、学校の実態に合った方法で位置付けていましょ。

教育相談担当の役割が明確になっていますか？

- ・担任等の相談相手になる。
- ・校内研修会や事例検討会を企画・開催する。
- ・連携チームの編成を提案する。などの役割が考えられます。

(校内だけで対応することが難しいと判断した場合) 専門機関との連携を図っていますか？

- ・地域の専門機関（相談機関、医療機関等）の情報を日頃から収集し、校内で共通理解を図りましょ。
- ・専門機関に任せきりにしないことも大切です。

(スクールカウンセラーが配置されている場合) スクールカウンセラーの活用について、共通理解されていますか？

- ・スクールカウンセラーとの情報交換を計画的に行いましょ。
- ・スクールカウンセラーの活動内容について、十分協議し、全教職員に周知しましょ。

● 事例をもとに考えてみましょう ●

< 事例 >

初めて小学校1年生を担任することになったB教諭は、入学式から半年経っても、校門前で母親と離れられずにぐずるAさんにどのように対応したらよいのか困っています。

勤めをもっているAさんの母親は、出勤時間を気にして「早く行きなさい。」と声を荒げてせかします。B教諭は、校門まで迎えに行き、Aさんを誘うようにしていますが、教室にいる子どもたちのことも気になるので、C教頭に対応をお願いすることが多くなっています。

毎朝繰り返されるこのやり取りを見ているD用務主事に、「先生、大変ですね。」と声をかけられても、B教諭は「頑張らなくちゃね。」と答えるのが精一杯でした。

教育相談担当のE教諭からも「協力したいけれど、どうやってあの子にかかわったらいいのか分からないし・・・」という声が聞こえてきます。F養護教諭も、「保健室だったら登校できるかしら・・・。」と思いつつ、声をかけかねていました。

この事例の問題点は何でしょう？
学校としてどのように対応していけばよいでしょう？

左の内容を参考にして考えてみてください。

【こんなことから始めてみては・・・】

● 週1回の情報交換会をもちましょ。

担任としては、「こんなことで困っています」とは、言い出しにくいものです。しかし、話してくれば助言や手助けができるのに・・・という人もいるでしょう。

教育相談担当者が中心となって話題を取り上げるようにし、困っていることを気軽に話せるような「場」や「雰囲気」をつくりましょ。

● 教育相談担当の役割について話し合ってみましょ。

この子どもへの指導にあたって教育相談担当者ができることは何なのかを、教職員みんなで話し合いましょ。そして、その共通理解をもとに、担当者が中心となって、積極的に支援を行っていましょ。

● 連携チームを組織してみましょ。

この事例の場合には、担任、管理職、教育相談担当者、養護教諭を中心とし、用務主事と連携した指導が考えられます。それぞれの専門性を生かし、保護者を含めてAさんに応ずる「連携チーム」を組織していくことが重要になるでしょう。

【次のステップのために】

この事例では、母親への対応が重要な意味をもちます。母親の不安やいらだちを取り除きつつ、学校への信頼を育てていくことがAさんの適応を促進することにつながります。その際には、区市町村教育相談室と連携し、対応を進めることもできます。

また、教職員のかかわりがどのようにAさんの学校への適応に役立っていったのか事例検討会等で検証、確認していくことも必要です。そこで得たノウハウは、他の子どもの指導にも生かしていくことができます。

最新版！

当センターでは、

- 学校教育相談推進資料「子どもの心が開くとき 子どもと心が通うとき」
- リーフレット「都立高等学校における教育相談体制の構築のために」

を作成、配布しました。学校教育相談推進資料はホームページにも掲載してあります。ダウンロードして、校内研修等に活用してください。

当センターでは、電話による相談、来所による相談、事例検討会や研修会への講師の派遣等を行っています。<学校教育相談体制の構築の方法><校内研修会の進め方>などについての相談があれば、下記の番号にお電話ください。
*スクールカウンセラーからの相談も受け付けています。

03-3493-8008